大日記に
時疫流行に右此薬を用て
を好るものの事
一時疫に大つぶなる黒大豆
をよくいりて三合煎じ其
水にて出し申べし
右醫源より出
一時疫に蕎麦の根と葉とつき
じぎ汁をそり多く飲べし
右財後備急方に出
一時疫に牛蒡とぢきじぎ
汁をそり飲べし
一度飲て汗をかきて
の薬を一服と大
そ飲ばぢきいりよりわる
薬碗に水四盃入二盃に煎て
一度飲て汗をかきて若薬
の薬をいれそもし右孫
玄人居る事
一時疫に瓜つはぶつはぶつくきちい
のもきてくるしむ事
芭蕉の根をぢきけと
ゆりて飲べし右財後備急方に出
一切の虫毒の毒にはうみ
の薬木きのこ美る獣肉と
此五味にてこれをのむ

大目次に
時疫流行の節薬を用て
を以てのみ記し
一時疫に大つぶなる黒大豆
をらいりて茶合煎じ茶を
氷に出し一時に呑べし
右醫源より出る
一時疫に茶煎の根と茶とつき
ぐき汁を多く呑べし
右附後伝方に出る
一時疫に牛蒡とぢきぐき
汁を多く用る薬碗半分に呑
候て上葉の茶を一椀ほど火
にて煎ぜりきいりなるが
茶碗に水四合入二合に煎して
一度飲て汗をかきてよし 若葉
の茶なくば枝にてもよし 右源

大日殿に
時疫流行に付薬を用て
之助をのうれ申一
一時疫ゟ大つぶゝる黒大豆
をらいりてを合煎ぜ之を
氷ゟ出し申し時〻呑ぐ
右醫源ゟ出ル
一時疫ゟ茶筅の根と茶とつき
ぐき汁を呑り多く呑ぐ
右附後伺之方に出ル
一時疫ゟ牛蒡と生姜
汁を呑り薬碗ゟ氷に
飲て之上薬の茶を一椀呑
之飲ぐきいろゝ
薬碗ゟ氷四度入二度ゟ出して
一度飲て汗をかきて若薬
の茶ゟ飲之
右源
一時疫ゟ茶つぶゝちい
のゝ之きて煎るしむる
芭蕉の根とはきぐきけと
ゆりて飲て右附後伺之方ゟ出
一切の食物の毒ゟ防ん為
の茶まきのこ美る殿方と
此ゟ用て之を飲ル

烹人居喜之毒

一時疫之病つはものつくきちい
のてくさきてくるしむる
芭蕉の根と法きけとも
ゆりて飲てら右財後備之方出

一切の食物の毒を防ぐ為
の茶木きのこ美る獸肉と脂
肪とのみて死をのるし

一切の食物の毒を防ぐ茶しむ
るをいつわる法をなりあるをぬるき
湯をのきたて飲てら

但茶木の茶を煎て毒を防ぐ
たるをいつくしらし右農政
全書之出

一切の食物の毒を防ぐ為て麻子しく
腹痛痛を苦参を水をて煎を
飲食を吐てら右野

一切の食物を防ぐ為に大麦
の粉をこまかしてさかをて
度し飲てら太本草綱目之出

一切の食物を防ぐ為て口鼻より
血あてすぐしむる法ぎと
きさみて三合水をて煎を
やしまて数度し飲食し血出
やむまて用てら右衛生易簡之
出

一切の食物の毒を防ぐ為に赤小豆

きさみて毒消ハ[illegible]
やーあきて或度ハ飯毒ハ[illegible]
やむまて用てハ右衛生為間ハ
出ス

一一切の食物の毒ハあるを炭ハ赤土
の黒焼を粉末にして煎ずかいハ
一ツ程て水にて用ゆ一獣の毒
ハ何ものたるとハ[illegible]右ハ食ハ出ス

一菌を食ハ何ものられたるハ忍冬の
豆茎ハ[illegible]生ハそうみ汁をのみて
[illegible]右東照志ハ出ス

右ハ薬方也[illegible]
[illegible]食ハ毒ハ[illegible]又也[illegible]
必疫病流行ハ[illegible]何ハ其病ハ
簡便方を探ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
出也

享保十八癸丑二月　　白月三英
　　丹羽西伯

あとに享保十八癸丑年仙臺の
時疫流行の家所ハ[illegible]
取ハ[illegible]
右ハ[illegible]疫病流行ハ
[illegible]
の毒ハ[illegible]
[illegible]享保十八丑年

右薬方世間に伝ふる所
新古毒又世人の
必疫病流行する所其病
簡便方を撰出書き付
作り法書し四方より
出也

享保十八辛丑二月　　五月三英
　　丹羽正伯

右享保十八辛丑年機嚢の
時疫流行の節
取用ひ作り利不利ある
右之内時行出対し疫病流行
し又は
の毒之内を性きする
和中散
対し不
し陰陽
遣決
陽毒
相符
右之通
五月　天明四年

時疫流行候節之薬方書付

特別
ヤ9
971